

地域づくり表彰

保育園留学推進協議会
(北海道厚沢部町)

遊休資産活用による関係人口創出

保育園留学推進
協議会

会長

高田 一弥



1. 厚沢部町の概要

厚沢部町は、渡島半島の日本海側、檜山管内に位置し、三方を森林に囲まれ、清流厚沢部川をはじめとする河川流域には、水田や丘陵地帯に畑地が拓けた農林業を基幹産業とする町です。また、『メークイン発祥の地』として古くから農業の営みが続けられてきており、安全で安心な農産物づくりに取り組んでいます。

また、厚沢部町では、平成21年に『過疎』を受け入れた上で、魅力あるまちづくりを目指す『素敵な過疎のまちづくり』基本条例を制定し、誰もが厚沢部町に「住んで良かった」「住んでみたい」「いつまでも住み続けたい」と思える、安全で安心して暮らせる、個性豊かで活力に満ちたまちづくりに取り組んでいます。



あっさぶメークイン畑

2. 活動開始の背景・経緯

厚沢部町では、全道の中でも早い段階から、町が100%出資する『素敵な過疎づくり株式会社』を設立し『移住体験住宅』を活用した移住施策などを行い、人口増に向けて外部からの人を受け入れる取組を進めてきました。

また、子育て支援にも力を注ぎ、山々に囲まれた町の特色を活かし、大自然の中で子どもがのびのびと生活できる認定こども園『はぜる』を平成31年に設立しました。『はぜる』は移住者や地域住民が集い多世代交流できる子育て支援拠点施設として

つくられており、町外の人でも短期間子どもを預けることが可能な『一時預かり』制度を設けていました。

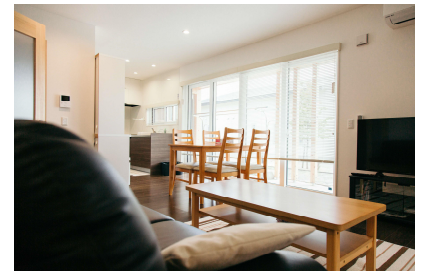


認定こども園はぜる

しかしながら、移住体験住宅を利用される方は高齢の方が多く、また、そこから移住につながることもこれまではなく、いかに若い世代に利用していただき、移住施策につなげていくかということが課題でもありました。

そうした中、現在保育園留学を官民連携で進める株式会社キッチハイクとイベントを実施したことをきっかけに、令和3年6月に会社代表である山本氏から『はぜる』の写真を見て「1歳の娘をはぜるに通わせることができますか」と問い合わせのメールが届きました。山本氏は横浜市在住ということもあり、正式な入園は広域入所の手続きなど事務的に大変なこともあるため、町から一時預かり制度の利用を提案しました。入居する住宅も移住体験住宅が空いていたことからそちらに決定。仕事もネット環境があればテレワークが可能ということだったので、移住体験住宅はWi-Fiも整備されていることから仕事ができる環境も整えることができました。山本氏が滞在の間、役場の担当者や保育園留学やまちづくりについて話す機会が多く、滞在最終日には、山本氏から保育園留学を事業化する企画書をいただきました。企画書の中身は、今まさに山本

氏が体験している『はぜる』での一時預かり制度の活用と移住体験住宅の利用（1週間～3週間）に加え、厚沢部町での生活体験（農作物の収穫体験など）をパッケージ化し『保育園留学』とすることで、わかりやすく、またインパクトを持った事業とすることができるのではという内容でした。山本氏の体験が『保育園留学第0号』として、保育園留学誕生の瞬間でもありました。



移住体験住宅



アスパラ収穫体験の様子

その後、関係機関との協議を重ね、保育園留学ポータルサイトを作成し、令和3年11月から募集を開始しました。また、令和4年4月からは、厚沢部町と株式会社キッチハイクによる『次の100年を創造する地域の家族と繋がりをつくる「保育園留学」事業』を推進するため官民連携による協定書を締結し、内閣府による地方創生推進交付金（現在の「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）」）を活用し、保育園留学を行う認定こども園はぜる、素敵な過疎づくり株式会社、商工会、

観光協会、JAのほか金融機関など地域づくりに関係する組織を構成員とする『保育園留学推進協議会』を設立し、事業を正式にスタートさせました。

3. 活動の内容

保育園留学は、家族で地域を訪れ、自然や文化と触れ合い、地域への特別な思入れを育む、暮らしと食体験を提供しています。



はぜる菜園での収穫体験

《旅先納税の活用》

ふるさと納税の一つである旅先納税を導入。厚沢部町を訪れ現地でスマホで納税することで電子クーポンが付与され、地元加盟店で使用することが可能となります。また、電子クーポンを保育園留学費用に充てることもできることから、保育園留学滞在中に旅先納税し、次回の保育園留学費用に充てリピーターとして2回目の保育園留学を行った家族もいます。

《キッズドクターの導入》

小児科がない厚沢部町において、保育園留学で訪れる児童が体調不良になった場合、他町の病院へ通う必要があることから、オンライン診療を導入しました。スマホにてオンライン診療を受けることで、処方箋が地元薬局へ流れることから、翌日朝には地元薬局にて薬を受け取ることができます。このキッズドクターは保育園留学児に限ったサービスではなく、厚沢部町民であれば誰でも利用することが可能なサービスとなっています。

《保育園留学コンソーシアム設立》

保育園留学が全国各地に広がったこともあり、保育園留学を実施する自治体、園、関係企業の参画による「保育園留学コンソーシアム」を設

立し、地域間の情報交換など行いながら、保育園留学の質の維持と向上を目指しており、令和5年10月には「保育園留学サミット」を東京にて開催しています。

4. 成果

令和4年度の保育園留学件数は150組であり、延べ526名が厚沢部町を訪れています。問合せ件数1,450件、キャンセル待ちは2,000件となっています。特徴的なのは、リピート希望率の高さで、実に97%の方がリピートを希望している状況です。令和5年度を受入を開始していますが、実際に昨年度来られた多くの家族がリピーターとして来られています。この満足度の高さは何かというと、『はぜる』による子育て環境の充実と情熱的な先生たちの存在がすごく大きいと感じています。保育園留学に来られる前は、建物や園庭などハード面に惹かれて来られる方が多いのですが、実際に来られて先生たちの子どもたちへの向き合う姿勢や、子どもだけではなく保護者も一緒に受け入れる姿勢に心打たれる保護者がすごく多いのではないかと思います。実際に利用された多くの保護者からは、「ハード面の素晴らしさはもちろんのこと、ソフト面が素晴らしい」という声が多数聞かれています。また、キッズリー（保育アプリ）によりその日の子どもの様子を写真で見ることができ、子どもの楽しそうな様子が伝わり安心して子どもを預けられている充実感も相まって仕事の生産性が上がったという声も聞かれています。

さらには、保育園留学を訪れる家族の地元消費額が20万円程度あることから、150組の利用で年間3,000万円程度の経済効果が生まれていることとなります。



はぜる園庭遊びの様子

5. 課題と展望

課題としては、受け入れ住宅の不足です。現在、町所有の移住体験住宅3棟4戸と民間住宅2棟2戸により最大6家族の受け入れが可能となっております。しかし、未だキャンセル待ちが2,000件ほどある状況を考えれば、受け入れ住宅の拡充は必要不可欠となります。そんな中、令和5年度中に「保育園留学の寮」として、保育園留学専用の移住体験住宅2戸を整備し、移住希望者には、住民票を移し賃貸契約による中期から長期（2週間～5年間）の利用ができる施設を現在整備しています。



整備中の「保育園留学の寮」

また、過疎地における空き家問題は深刻であり、今後は空き家をいかに有効活用できるかも重要となってきます。保育園留学の需要と空き家の居住としてのマッチングが図れることで、この保育園留学が過疎地における課題解決に向かうロールモデルになるものと考えています。

それでも移住というのは簡単ではありません。たしかに保育園留学から移住してくださる家族がいることは町にとって大きなことですが、必ずしも『移住』が全ての解ではないとも思っています。保育園留学により年間通して利用家族がいることは、すなわち厚沢部町で人は変われど確実に生活している子育て家族がいることとなります。住民票はなくても、そこで生活することは町の活性化につながります。そうした家族が一組、二組と増えていくことで、直接的な移住者ではなくても、もはや移住と同じ意味をなす関係人口になるのではないかと考えます。

今後も全国のたくさんの方に『はぜる』での保育園留学を体験していただき、子育ての充実と厚沢部町との超長期的な関係人口を創出していきたいと思ひます。